

ふるさとを語る

日本の縮図と言われる兵庫県は、
多彩な人材を輩出しています。
今回は、芥川賞（2018年下半期）作家の
上田岳弘さんに、お話を伺いました。

芥川賞作家

上田 岳弘 さん

う え だ た か ひ ろ

いう時代だったので、自然と本を読む習慣がついてました。

そんな環境のせいでしょうか、5歳頃から作家になりたいと思ってました。

4人兄妹で私だけが大学を機に上京しました。両親と兄妹家族も含め、今も家族みんなが兵庫県に住んでいて、大学を卒業しても「お前一人くらい明石に帰ってこなくてもいい」という雰囲気があり、兵庫県へのUターンは考えませんでした。

たまたま、明石の実家に帰省しますが、山があり海があり、明石はやっぱり住みやすくていい街だなと思います。淡路島に祖父母が住んでいたので、みんなで集まる時は淡路に帰省することが多いです。

母方の祖母の家は、阪神・淡路大

震災の時、全壊しました。幸い、祖母や家族は全員無事でした。私は、

明石の実家で震災に遭い、家は、風呂場のタイルが全部剥がれるなどの被害がありました。私自身は、気がつけば大量の本の山に埋もれていました。作品「塔と重力」では、この体験が執筆の原点になっている気がします。

兵庫県の地名を作品中に使うことがたまにあります。取材に行く時間がないからと答えたりもしますが、やはり愛着があるからでしょうね。読者からすると、主人公の出身がどこであるうが関係ないので、自分が知っている地域をバックボーンとして書くことで効率的に執筆できるといふのもありますが（笑）。

小説は朝5時半に起きて7時半に出社するまでの間に書いています。朝のほうが書きやすく、夜は、仕事で疲れて書けないですね。小説家としての作品の締め切り等は、仕事上の主要なお客さんとは共有しているので、日程調整しながら書いています。

仕事を辞めて、小説家だけでやっていけば、と言われるますが、それだと、仕事をしていることで経験、体験できるバリエーションがなくなり、行き詰まりそうです。そういう意味でも仕事は辞められないですね。

今回の作品「キュー」は、シンギュ

出身は明石市江井ヶ島です。海がすぐ近くにあったので、子供の頃はよく海水浴に行っていました。中学生ぐらいになると、銚子ちうしを持って岩場付近の魚を捕っていました。二見から明石まで続くサイクリングロードがあり、自転車を飛ばして市の図書館まで通っていたこともありです。

家族みんなが本をよく読んでいたので、自分では本を買わなくても、家の中には常にいろんなジャンルの本が転がっていました。両親や兄妹が買ってきたものを手当たり次第に読んでいた気がします。インターネットもなく、テレビも家に1台と





〈プロフィール〉

1979年生まれ 明石市出身
県立明石西高校卒業
早稲田大学法学部卒

【受賞歴】

- 2013年「太陽」で第45回新潮新人賞受賞
- 2015年「私の恋人」で第28回三島由紀夫賞受賞
- 2018年「塔と重力」で第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞
- 2019年「ニムロッド」で第160回芥川龍之介賞受賞

今回の取材で、東京兵庫県人会が、東京圏での兵庫県の魅力発信など尽力されていることを知りました。

私自身、今年6月に明石市の「あかし本のまち大使」に任命いただき、

平凡な医師の僕が突然拉致された先では、世界の趨勢を巡る暗闘が繰り広げられていた。その中心には、長年寝たきりのはずの祖父がいるという。そして明かされる祖父の秘密、それは人類を一つに溶かすという使命なのだが—

超越系文学の旗手とその全才能を注ぎ、Yahoo!JAPANでの同時連載も話題となった、芥川賞受賞第一作。

上田さんからサイン本をいただきました！
詳しくは43ページをご覧ください。



本をツールとした「やさしいまち」づくりのPRに関わっていきます。これからも関東在住ではありませんが、ふるさと兵庫県を想い何かできればと思っています。

ラリティ（人工知能（AI）が人類の知能を超える転換点（技術的特異点…2045年頃と言われる）を目前に人類の進化の意味を根底から問う小説となっています。AIが発達していく中で、人間にしかできないことは何だろう。最終的に人間はAIに支配されるのか。私自身、ITの現場で仕事してきた経験をふまえながら、この作品を書きました。

「例外」として存在できればなどと考えることはありませんね。

「例外」のポジションをどう作るか、周りから「その他」と言う立場でいられるよう意識することで、独自の観点が見いだせれば良いなど。今後は、次の課題というか、次に描くべきものの輪郭をはっきりさせていくために、ちょっとジャンル色のつよい作品に取り組みたいと思っています。

会社においても同じことで、まず、会社が生き残ること自体が大変なこと。そして、会社が成長しても、自分の役割、バランスを意識しながら、

3歳になる娘が、最近ピアノを始めました。家の中では、「プリキュア」に夢中です。家族で一緒に過ごす時間を増やすため、講演会で地方に呼ばれた時など、旅行を兼ねて一緒に行くようにしています。この前は、中国にも一緒に行ってきました。その土地の郷土料理や観光地に行ってみたり、家族で愉しんでいます。

それでもやはり故郷である、兵庫県、明石・淡路が一番落ち着きます。帰省するたび、海や山の自然を残しつつも魅力的な街並みになっているように感じ、毎回帰省するのを楽しみにしています。

今は、会社役員という立場で、自分の裁量で仕事をしています。忙しいことには変わりはなく、家族と一緒に過ごす時間がなかなかありません。